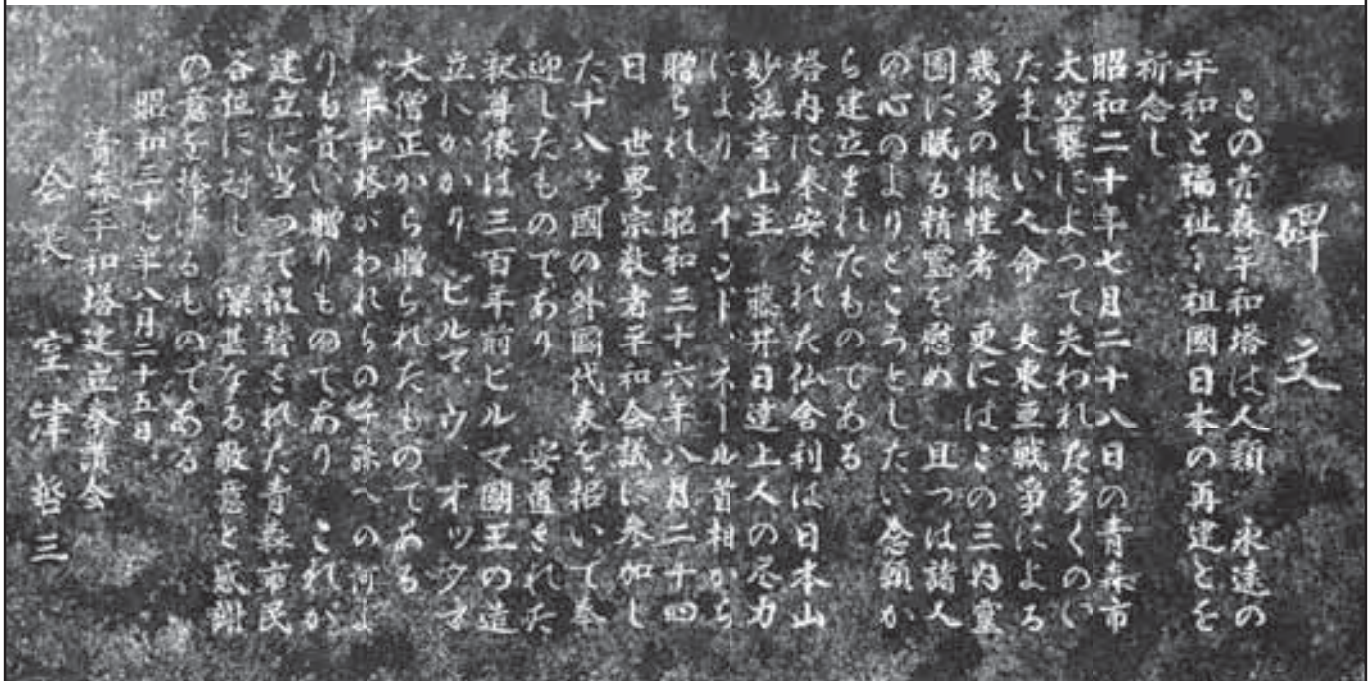


三内霊園の青森平和塔



青森平和塔右側の銘板

三内霊園は、三内丸山遺跡に隣接しています。実際にお墓工事をすると、よく土器がでてきたと昔の職人が言っていました。

そして、霊園の一番高い場所にそびえたつ白く丸い塔。一体これはなんだと思う若い方も多いでしょう。

この塔は、昭和20年7月28日の青森市大空襲で犠牲になった方々の、慰霊のために建てられました。(昭和39年8月25日建立)

昭和36年、京都で第一回世界宗教者平和会議が開催され、宗教は本来、平和と寛容の精神を伝えるという京都宣言を出しています。

その時、ビルマ仏教会のウ・オッタマ大僧正が「第二次世界大戦の犠牲者の慰霊と、戦争回避を祈念するための平和塔を建てる計画のある所に仏像を贈る」との提言があり、これに応じた、青森、東京、静岡、熊本の4ヶ所が選ばれて、平和塔が建ち仏像が贈られました。

青森平和塔の完成式典には、18カ国の代表を招いています。内部には、日本の仏教界とインドとビルマ(現在のミャンマー)

からの協力を得て、お釈迦様の遺骨の仏舎利と、300年前に造られた釈尊像が納められています。

現在であれば、日本国憲法の宗教の自由の条文解釈のため、このような宗教施設は不可能だったかもしれません。宗教が、今ほどには偏った見方で違和感を持たれない時代であり、為政者も堂々と自分の考えを實行できていたのかと思います。

日本全国に数多くの公営の霊園がありますが、このような明確に宗教の本質を伝える施設を持つ霊園は貴重なことです。平和塔、供養塔、慰霊塔、五輪塔、宝塔などに使われる「塔」の文字には、「高く顕れて皆を導く」という意味があります。三内霊園にある16、000区画のシンボルとして、青森平和塔は建立から今まで54年、そしてこれからもずっと、インドから来た仏舎利と、ビルマから来た釈尊像と共に青森市を慈悲の心で見守っています。

三内霊園を訪れた際には、見晴らしの良い場所にあるこの塔をお参りしてみてください。

(株)番地銘石 番地常夫



三内霊園の青森平和塔
(右側銘板)



昭和28年頃の三内霊園
(高台から北を臨む)